第167号 平成31年02月(月刊)

## バレンタイン豆知識

もうすぐバレンタイン。と いうことで由来について調べ てみました。

3世紀頃、ローマでは兵士が 家族恋しさで任務をおろそか にしないよう、兵士たちの にしないよう、いました。 婚は禁じられていンタイン 教師にな中バレンタイン教師に 若い兵士達を密かに結婚させて ました。それを知ったと 皇帝は激怒し、バレンタ は処刑されてしまいた。 その日が2月14日でした。

それから200年後、ローマでは 2月14日に男女がくじ引きで付 き合うというイベントが行われるようになりました。しかし、モラルの低下を危惧したキリスト教はこのイベントを廃止し、200年前に恋人たちのために処刑されたバレンタインを祀る日としました。それからというもの、2月14日は恋人たちがお互いに贈り物やメックです。

では何故、日本では女性が 男性にチョコレートやクッキー を渡すようになったのでしょ うか。諸説あるようですが、1 936年に洋菓子店であるモロゾ フ株式会社が「チョコレート を贈る日」として、宣伝したのが始まりとされています。 そして1970年代にデパートが女性たちに向けてバレンタインに女性から男性にチョコレートを贈ろうというキャンペーンを行い、それが定着して日本独自の慣習となって現在に至っているということのようです。





**2** 月号 発行所 ㈱北陸ヨシナカ 東京営業所 TEL:03-3555-0796

うす試と込近ゼサく貼さにに がイズるとしているというがなるというできます。 目絆れツ庁 たっちすが 怪 う時る端い倉すがると、日本のである。 時る姉ろです。 タ 目れの法 れ普を ま剥ぽ絆し 来がら部の て真だ コ切分が普に通交患へんそ ツりの一通くに差部中う 教対 れ抜膏す

## インフルエンザ予防に効果的な飲み物

インフルエンザが猛威を振るってります。予防には水やうがいます。予防には水やうがい発素を飲んだ方が効果的という話を耳にします。緑茶で胃酸に洗い流ったインフルエンザ菌が胃酸にようとが、日東紅茶や三井銘茶でしている三井農林がウエブもしたので簡単にまとめてみました。

①インフルエンザウイルスを無力化すると言われている飲み物や食品成分の能力を調査したところ、感染阻止率は紅茶99.96%、緑茶97.6%、ココア91.5%、生姜77.1%、乳酸菌24.1%だっ

## ステンレス豆知識 耐熱性

ステンレスは鉄よりも耐熱性に優れていますが耐熱性はあります。

オーステナイトステンレスは一般に550℃ を超える温度帯域で優れた機械的性質を示しますが、約600℃~980℃以上の長時間加熱すると、常温や低温でのじん性が低下すると言われています。 SUS304にSiを添加して耐酸化性を高めたSUS302Bや、CrとNiの添加量を増やすことでSUS309SやSUS310Sがあ

た。(※十分な効果を得られるのは感 染阻止率99%以上)

②ポリフェノールを豊富に含む飲み物でインフルエンザウイルスを無力化させるのに必用な時間を比較すると、紅茶が15秒ほどで阻止能力が極めて高い。(※緑茶は数値が記載されていなかったので、私がグラフから読み取った数値は12~13分でした)

③マウスの実験により紅茶で無力化 したインフルエンザウイルスの感染 力は復活しないことが判明。

②社内アンケート調査実施で、紅茶の飲用頻度が高いほどインフルエン ザ発症率が低いことが判明。

⑤紅茶ポリフェノールがインフルエ ンザウイルスのスパイクに付着して

ります。

フェライトステンレスは500℃を超えると 急に強度が落ちてきます。また高温環境下 では脆化現象を起こすこともあり、こうし た環境下での構造材料としてはあまり使わ れない傾向にあります。特に870℃を超える ような環境では非常にもろくなります。

マルテンサイトステンレスは500℃付近まではかなり強い引張強さを示しますが、これを超えると強度が急に低下してきます。

無力化する。

以上が主な内容です。三井農林の販売主力品が紅茶であること、紅茶と緑茶の抽出温度が異なっていること(紅茶はティーバック1袋を熱湯150ミリットルで1.5分抽出しているのに対して、緑茶はティーバック1袋を80℃のお湯150ミリットルで1.5分抽出)、抽出時間が長すぎる(美味しく飲むには紅茶は約1分)、社内アンケートの回答人数が記載されていない等、内容に疑問を感じる項目がいくつかありましたが、それを差し引いても紅茶がということは確認出来たのかなと感じた調査内容でした。

添加元素に、モリブデンやバナジウム、タングステン、ニオブなどを入れて高温強度を改善したタイプもあります。

析出硬化系ステンレスは元来は常温(主として550℃以下)での強度を高めたタイプのステンレス鋼材材ですので、450℃を超えると高温強度は低下してきます。温度が高くなりすぎない環境であれば、優れた強度を持ちますので、温度帯域を絞って使われることが多いです。